

概略

小神地区こがみの北に、小島と境を有しそびえているのが「麓山」であり、名前の通り小神地区にとつては、信仰の山で神社が祀られている。小神の麓山から北へ四百ほど尾根道を進むと、羽田羽山がほぼ同じ高さでそびえているので、見る方角によつては、らくだの背のようにも見える山々である。羽田羽山は月館町と界を有し、昔は、人々の行き来が盛んだったようである。

いずれの山も中腹よりも上まで住宅や畑があり、里山のたたずまいが十分に感じられる山である。

登山行程

【下手渡藩駕籠立場から小神麓山へ】

町道「遠西田代線」の小神と小島の境がちょうど峠になつていて、史跡「下手渡藩駕籠立場」の碑が建っている。ここから北西に民家（藤原保二さん）があるので、まずはそこを目指す。さらにその奥には桑畑が広がっている。桑畑の上端に着くとY字路があり、右に道を取

ると、昔ニツケルを掘っていた跡が残っている。桑畑に戻りY字路を左に進むと、またY字路になる。右に道を取ると、山頂はもうすぐそこ。

【苗代地蔵（泥地蔵）から小神麓山へ】

小神公民館前に、地藏堂がある。ここから、北東に向かつて道は始まるが、自動車は小神公民館に置いて歩いていくのが望ましい。途中の道は急坂で難儀することが目に見えている。

百五十ほど進むと民家が五〜六軒点在しているが、民家にたどりつかない坂道を登るとやや平坦な道となり、右手に桑畑、左手は高い土手となる。この土手の上は「鰻内館」で平らな広場が数段ある。ここを過ぎると藪椿と竹藪となり民家が見えてくる。本道はここから左に折れて山道伝いに、松と杉の林を通り鳥居跡につく。一方、民家に向かつて登ると、左手の赤花ウツギの株元にある青面金剛（庚申塔）にたどりつく。右手の高いところには、山神塔を見つけることができる。この下から急坂を登ると、四辻となる。ここで本道と合流する。

ここからが麓山山頂への道であり、右手に高さ五十